

米子工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	人文社会特論	
科目基礎情報							
科目番号		0014		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		専攻科 物質工学専攻		対象学年	専1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		レジュメ・資料を配布。					
担当教員		布施 圭司,加藤 博和,原田 桃子					
到達目標							
現代の倫理的課題（個人と社会、コミュニケーション、人格と生命倫理など）について理解できる。 現代日本の政治・経済システムや経営組織について理解できる。 イギリスの多民族・多文化社会の成立の歴史的展開について理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		現代の倫理的課題を非常によく分析できる。		現代の倫理的課題を概ねよく分析できる。		現代の倫理的課題の分析が不十分。	
		現代日本の政治・経済システムや経営組織について非常によく分析できる。		現代日本の政治・経済システムや経営組織について概ねよく分析できる。		現代日本の政治・経済システムや経営組織についての分析が不十分。	
		イギリスの多民族・多文化社会の成立の歴史的展開について非常によく分析できる。		イギリスの多民族・多文化社会の成立の歴史的展開について概ねよく分析できる。		イギリスの多民族・多文化社会の成立の歴史的展開についての分析が不十分。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-2 JABEE a							
教育方法等							
概要		本講義では、人文・社会の各分野の、本科よりさらに進んだ内容を講ずることで、社会、歴史、文化、人間についての教養を深める。					
授業の進め方・方法		現代の倫理的課題の整理、現代日本の政治・経済システムや経営組織、イギリスの多文化社会成立の歴史的展開を主要なテーマとして講義を進める。 次のような自学自習を60時間以上行うこと。 レポートの作成／プレゼンテーションの準備／配布資料の学習／関連文献の読解による知識の拡充					
注意点		毎月曜日の16－17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は各教員の研究室に来ること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期		1週	ガイダンス、現代社会における個人			現代社会における個人の特質を分析できる。	
		2週	現代社会とコミュニケーション 1			情報化によるコミュニケーションの変化を分析できる。	
		3週	現代社会とコミュニケーション 2			現代における権威と自由を分析できる。	
		4週	人格と生命倫理 1			生命倫理における人格の問題を分析できる。	
		5週	人格と生命倫理 2			人格概念について分析できる。	
		6週	企業と会社の制度的な特徴			企業と会社の制度的な特徴について理解し分析できる。	
		7週	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任			コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任について理解し分析できる。	
		8週	経営理念、目的と戦略			経営理念、目的と戦略について理解し分析できる。	
		9週	企業戦略			企業戦略について理解し分析できる。	
		10週	競争戦略と事業システム			競争戦略と事業システムについて理解し分析できる。	
		11週	イギリス帝国と「ヒトの移動」			イギリス帝国の歴史的展開のなかで「ヒトの移動」がどのように関与していたか理解できる。	
		12週	第二次世界大戦後におけるイギリスの移民政策①			戦後のイギリス社会におけるイギリスの移民政策の展開を、様々な要素を関連させながら理解できる	
		13週	第二次世界大戦後におけるイギリスの移民政策②			第二次世界大戦後のイギリスの移民政策をもとに、グローバル化と国家の関係について分析できる	
		14週	多民族社会イギリスの抱える諸問題①			多民族社会となったイギリスが抱える問題について理解し、原因を考えることができる。	
		15週	多民族社会イギリスの抱える諸問題②			多民族社会が抱える問題について、イギリスの事例を用いて分析し、検討することができる。	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	4		
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	4		
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	4		
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	4		
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	4		

				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	4	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	4	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	4	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0